臺灣日日新報
本日八頁

# 高原の白雪を蹴つて
# 山西の敗殘匪掃蕩戰
## 我軍猛然火蓋を切る

【電通】二十五日發同盟】山西省西部に蠢動する敗殘匪掃蕩を目指し晉南臨汾地區に集結しゐた我軍は二十三日夜半を期し一齊に行動を開始し汾河北岸の稷山、新絳、北方八村)に進出、先づ二村部隊に依つて敵の火蓋は切られた、即ち二十四日掃蕩同部隊は續々臨後の諸隊に行動を起して一氣に西進、白雪を蹴つて第六十一軍の一部(稷山東方四十粁)北趙及び西南側の地區よりその背方毛張村(稷山西南方五粁)に亘る約五粁の地區に陸續集結を完了、敵の退路を遮斷すべく攻撃を開始した、一方第六十一軍の一部は稷山東方の(稷山東北方十五粁)及び大間村の敵據點を攻略、これを占領した

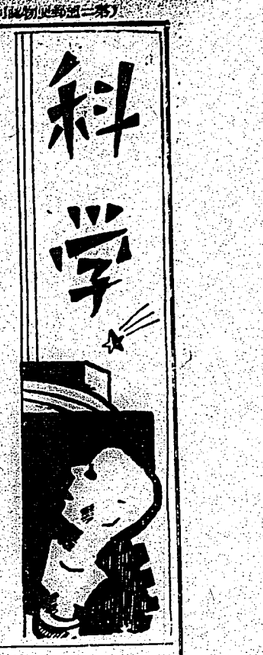
## 枕頭村に重壓

【電通】二十五日發同盟】我が二村、十四師團隊の一部(稷山西方十粁)は二十五日午前零時三十分稷山西方の王家庄西方山地に進出、敵の背後を脅かしつつ同

# 本島對外貿易（十一月迄）
## 滿支向けは大躍進
### 圓ブロック外は著しく不振

十一月中の本島對外貿易は輸出二千四百七十万圓、輸入二千四百十四万圓の入超となつた前年同月に比べ輸出は二千八百十二万圓、輸入は二千四百五十五万圓の入超となり輸出入共に著しい増加を示してゐるが、之を累計に見ると一月から十一月迄の輸出は二億六千百二十万圓、輸入は二億六千四百五十万圓の入超となり前年の入超二百二十万圓に比べ二千四十万圓の入超増である、之を滿支圓ブロックと外國とに分けて見ると十一月中の輸出は滿洲二千二百八十万圓、支那二千四百八十八万圓、外國向二千万圓に過ぎず、輸入は滿洲二千二百八十万圓、支那二千四百八十八万圓、外國向二千四百十万圓で滿洲は十一月中の輸出八十万圓、輸入二百六十四万圓の入超、支那は十一月中の輸出八十八万圓、輸入二千四百八十八万圓の入超、外國向は十一月中の輸出二千四百十万圓、輸入二千四百十万圓の入超となつてゐる

# 科學



## 入浴と體重の變化

### 九大温泉治療學研究所　水沼道勝氏の研究

日本人ほど入浴の好きな国民はないし、また熱心をやる国民も少ない。ところが一般に入浴に関する知識は案外少ないといってもよい程無関心である。健康者又は患者を入浴させるに際しては入浴の方法に関する正しい知識を持たねばならない。入浴方法の適不適は一般的問題ではあるが、更に入浴による体重変化を併せて考へることは、入浴に当つて最も注意すべき温度、入浴時間等他の決定に関する基礎資料を与へるものである。これについて九州帝大温泉治療学研究所の水沼道勝氏の研究を次に紹介しよう。

△

浴温　入浴時間　浴前体重　浴後体重　減少

| 浴温 | 入浴時間 | 浴前体重 | 浴後体重 | 減少 |
|---|---|---|---|---|
| 四二度 | 一〇分 | 五四瓦 | 五四瓦 | 〇 |
| 〃 | 二〇分 | 四一九 | 四一八 | 一 |
| 〃 | 三〇分 | 三八七 | 三八五 | 二 |
| 〃 | 四〇分 | 三五三 | 三五〇 | 三 |

一般健康者の浴後体重の減少は右表の如く四二度以上の温度は極端であるが、これが病弱者は病弱者程微量にして数分の入浴時間の差異は僅少であるが、浴温並に入浴時間を増すときはその差は著しく増大する。

△

以上の結果から見るとき、一般健康者は勿論、病弱者並に衰弱者の入浴については特に入浴時間、温度に細心の注意を要することは云ふまでもないことである。殊に摂氏四二度、一〇分間の熱浴は相当の負担で、患者は勿論健康者もその際用に当つては十分の注意が必要である。従つて病弱者の入浴については、一層細心の注意を以てその温度時間を決定することの必要を物語るものである。

△

われわれの浴温の適否なものは同氏の定義によれば摂氏三十七度同氏はこの実験に当つて、次のやうな方法によつてなされた。被験者は空腹時を選んで入浴させ、浴槽内では努めて静止せしめ、所定時間を経て浴槽を出た時は、直ちに絞つた手拭で全身を拭ひ、速に浴後体重を測定し、但浴後もなるべく安静を保たしめ、二十分間に、二時間に亘つて浴後の体重の時間的変化を観察されたのである。

△

而してその実験の結果は、次表に見られるやうに、浴後はすべて体重は減少するが、その減り具合は、温度を異にすることによつて著しい差異があり、殊に高温浴と入浴時間を増すについて、体重の減少も大きくなり、之より低くとも減少人のそれと比較すると、低かに高温である。すなはち外国人に於ては三十二度以下三十度を適温とするが、之は国民性の然らしむるところによるものと見られ、日常入浴を奨励し、熱湯の習慣を有する国民として当然の現象であらうと思はれる。

△

この低温生理学の最初の試験的実験に成功したのは、アメリカのセントルイス大学の教授バジル・ルウエット及びグレゴリイ・テンネスの両博士である。

両博士の実験の材料として使用された細胞は、一九〇度といふ冷さで、そして液体空気の温度は摂氏一九〇度といふ冷さであつた。これらの細胞が全然生のままで実験された場合には、忽ち凍結して死滅してしまつた。ところが先づこれら細胞の水分を一部分化学的操作によつて除去した後の実験に於ては、この極度の低温中に於てもなほ生を続てゐる細胞を観見することが出来たのである。

以上の実験の結果から、ルウエット及びテンネスの両博士の得た新しい次の如きものであつた。

×

植物細胞に含んだ極度の冷却はその繁殖の度に応じて死滅するものではない。即ち植物細胞に実際に死滅的影響を及ぼすのは、室下何十度といふ低温ではなく、室下一五度の寒さである。細胞中の液体が結晶して細胞を破壊する程度になつては、この相対的に高い温度なのである。極度の低温中における液体凍結は、結晶を造らず、従つて細胞の膨張も生ぜず、従つて細胞の破壊もない。膨張がより緩やかで、破壊作用が容易に行はれる相違がある。従つて、化学物質によつてこれらの膨張を「緩和化」せしむることは、この実験の示唆する事に通じせしむる最も大きな価値の一つと云ふことが出来る。

×

植物細胞に含んだ極度の冷却はその繁殖の度に応じて死滅するものではない。即ち植物細胞に実際に死滅的影響を及ぼすのは、室下何十度といふ低温ではなく、室下一五度の寒さである。細胞中の液体が結晶して細胞を破壊する程度になつては、この相対的に高い温度なのである。極度の低温中における液体凍結は、結晶を造らず、従つて細胞の膨張も生ぜず、従つて細胞の破壊もない。膨張がより緩やかで、破壊作用が容易に行はれる相違がある。従つて、化学物質によつてこれらの膨張を「緩和化」せしむることは、この実験の示唆する事に通じせしむる最も大きな価値の一つと云ふことが出来る。

## 液體空氣中の植物細胞の實驗

### アメリカで劃期的な成功

実験に成功したのは、アメリカのセントルイス大学の教授バジル・ルウエット及びグレゴリイ・テンネスの両博士である。

両博士の実験の材料として使用された細胞は、一九〇度といふ冷さで、そして液体空気の温度は摂氏一九〇度といふ冷さであつた。これらの細胞が全然生のままで実験された場合には、忽ち凍結して死滅してしまつた。ところが先づこれら細胞の水分を一部分化学的操作によつて除去した後の実験に於ては、この極度の低温中に於てもなほ生を続てゐる細胞を観見することが出来たのである。

以上の実験の結果から、ルウエットと体重の減少も大きくなり、之より低くとも減少人のそれと比較すると、低かに高温である。すなはち外国人に於ては三十二度以下三十度を適温とするが、之は国民性の然らしむるところによるものと見られ、日常入浴を奨励し、熱湯の習慣を有する国民として当然の現象であらうと思はれる。

△

この低温生理学の最初の試験的実験に成功したのは、アメリカのセントルイス大学の教授バジル・ルウエット及びグレゴリイ・テンネスの両博士である。

両博士の実験の材料として使用された細胞は、一九〇度といふ冷さで、そして液体空気の温度は摂氏一九〇度といふ冷さであつた。これらの細胞が全然生のままで実験された場合には、忽ち凍結して死滅してしまつた。ところが先づこれら細胞の水分を一部分化学的操作によつて除去した後の実験に於ては、この極度の低温中に於てもなほ生を続てゐる細胞を観見することが出来たのである。

以上の実験の結果から、ルウエット及びテンネスの両博士の得た新しい次の如きものであつた。

×

植物細胞に含んだ極度の冷却はその繁殖の度に応じて死滅するものではない。即ち植物細胞に実際に死滅的影響を及ぼすのは、室下何十度といふ低温ではなく、室下一五度の寒さである。細胞中の液体が結晶して細胞を破壊する程度になつては、この相対的に高い温度なのである。極度の低温中における液体凍結は、結晶を造らず、従つて細胞の膨張も生ぜず、従つて細胞の破壊もない。膨張がより緩やかで、破壊作用が容易に行はれる相違がある。従つて、化学物質によつてこれらの膨張を「緩和化」せしむることは、この実験の示唆する事に通じせしむる最も大きな価値の一つと云ふことが出来る。

## 世界の甘美 日本の"枯露柿"

### 古來戰勝に附もの

品種、製法、榮養の話

柿は日本に古くからあり、福島、長野、静岡、新潟、熊本、岡山、愛媛、福岡、和歌山、京都の十産地を記録の全国一致の処に報告され、年産額七千百七十五万貫、千二百八十一万二千円に上り、その産額の多いこと、品質の優秀なる点に於て実に世界に誇るべき果実である。

×

而して柿は甘味に富んでゐるが、これから脱渋に関しては、我国独得のもので、古くから脱渋に関する数々の研究が行はれてゐる。

×

静岡県では古くから枯露柿を製造し、同県加茂郡湯ヶ島村は枯露柿の産地として知られてゐるが、今から凡そ七百九年前、後醍醐天皇の元弘年間、時の郷士狩野某なる者が、柿の脱渋法に工夫を凝らし、之を献上したところ、柿に関する研究に没頭し、遂に今日の枯露柿を創製したといひ伝へられてゐる。

降つて慶長年間、徳川家康の顧問僧金地院崇伝和尚が駿府城内に柿を植へ、その実験が大なる成績を挙げて、その旨を将軍秀忠に報告したところ「大柿尋ぎに入り喜ぶの品なり」との御墨付をいただき、柿の栽培が奨励されたといふ。

×

枯露柿一個は米一升に相当するといはれ、枯露柿を以て領地に代へた武将もあつたといふ。

×

その後年々奨励されたが、明治中期に至つてから本村に限つて著しく発展し、明治三十年頃には、本村の戸数三百十余戸、人口一千二百余人の内、実に三百十余戸が柿作に従事し、その産額は百貫目一千、一千五百貫目一千五百、二千貫目一千五百、三千貫目一千五百、四千貫目一千五百、五千貫目一千五百、六千貫目一千五百、七千貫目一千五百、八千貫目一千五百、九千貫目一千五百、一万貫目一千五百、一万二千貫目一千五百、一万三千貫目一千五百、一万四千貫目一千五百、一万五千貫目一千五百、一万六千貫目一千五百、一万七千貫目一千五百、一万八千貫目一千五百、一万九千貫目一千五百、二万貫目一千五百、二万一千貫目一千五百、二万二千貫目一千五百、二万三千貫目一千五百、二万四千貫目一千五百、二万五千貫目一千五百、二万六千貫目一千五百、二万七千貫目一千五百、二万八千貫目一千五百、二万九千貫目一千五百、三万貫目一千五百、三万一千貫目一千五百、三万二千貫目一千五百、三万三千貫目一千五百、三万四千貫目一千五百、三万五千貫目一千五百、三万六千貫目一千五百、三万七千貫目一千五百、三万八千貫目一千五百、三万九千貫目一千五百、四万貫目一千五百、四万一千貫目一千五百、四万二千貫目一千五百、四万三千貫目一千五百、四万四千貫目一千五百、四万五千貫目一千五百、四万六千貫目一千五百、四万七千貫目一千五百、四万八千貫目一千五百、四万九千貫目一千五百、五万貫目一千五百、五万一千貫目一千五百、五万二千貫目一千五百、五万三千貫目一千五百、五万四千貫目一千五百、五万五千貫目一千五百、五万六千貫目一千五百、五万七千貫目一千五百、五万八千貫目一千五百、五万九千貫目一千五百、六万貫目一千五百、六万一千貫目一千五百、六万二千貫目一千五百、六万三千貫目一千五百、六万四千貫目一千五百、六万五千貫目一千五百、六万六千貫目一千五百、六万七千貫目一千五百、六万八千貫目一千五百、六万九千貫目一千五百、七万貫目一千五百、七万一千貫目一千五百、七万二千貫目一千五百、七万三千貫目一千五百、七万四千貫目一千五百、七万五千貫目一千五百、七万六千貫目一千五百、七万七千貫目一千五百、七万八千貫目一千五百、七万九千貫目一千五百、八万貫目一千五百、八万一千貫目一千五百、八万二千貫目一千五百、八万三千貫目一千五百、八万四千貫目一千五百、八万五千貫目一千五百、八万六千貫目一千五百、八万七千貫目一千五百、八万八千貫目一千五百、八万九千貫目一千五百、九万貫目一千五百、九万一千貫目一千五百、九万二千貫目一千五百、九万三千貫目一千五百、九万四千貫目一千五百、九万五千貫目一千五百、九万六千貫目一千五百、九万七千貫目一千五百、九万八千貫目一千五百、九万九千貫目一千五百、十万貫目一千五百、十万一千貫目一千五百、十万二千貫目一千五百、十万三千貫目一千五百、十万四千貫目一千五百、十万五千貫目一千五百、十万六千貫目一千五百、十万七千貫目一千五百、十万八千貫目一千五百、十万九千貫目一千五百、十一万貫目一千五百、十一万一千貫目一千五百、十一万二千貫目一千五百、十一万三千貫目一千五百、十一万四千貫目一千五百、十一万五千貫目一千五百、十一万六千貫目一千五百、十一万七千貫目一千五百、十一万八千貫目一千五百、十一万九千貫目一千五百、十二万貫目一千五百、十二万一千貫目一千五百、十二万二千貫目一千五百、十二万三千貫目一千五百、十二万四千貫目一千五百、十二万五千貫目一千五百、十二万六千貫目一千五百、十二万七千貫目一千五百、十二万八千貫目一千五百、十二万九千貫目一千五百、十三万貫目一千五百、十三万一千貫目一千五百、十三万二千貫目一千五百、十三万三千貫目一千五百、十三万四千貫目一千五百、十三万五千貫目一千五百、十三万六千貫目一千五百、十三万七千貫目一千五百、十三万八千貫目一千五百、十三万九千貫目一千五百、十四万貫目一千五百、十四万一千貫目一千五百、十四万二千貫目一千五百、十四万三千貫目一千五百、十四万四千貫目一千五百、十四万五千貫目一千五百、十四万六千貫目一千五百、十四万七千貫目一千五百、十四万八千貫目一千五百、十四万九千貫目一千五百、十五万貫目一千五百、十五万一千貫目一千五百、十五万二千貫目一千五百、十五万三千貫目一千五百、十五万四千貫目一千五百、十五万五千貫目一千五百、十五万六千貫目一千五百、十五万七千貫目一千五百、十五万八千貫目一千五百、十五万九千貫目一千五百、十六万貫目一千五百、十六万一千貫目一千五百、十六万二千貫目一千五百、十六万三千貫目一千五百、十六万四千貫目一千五百、十六万五千貫目一千五百、十六万六千貫目一千五百、十六万七千貫目一千五百、十六万八千貫目一千五百、十六万九千貫目一千五百、十七万貫目一千五百、十七万一千貫目一千五百、十七万二千貫目一千五百、十七万三千貫目一千五百、十七万四千貫目一千五百、十七万五千貫目一千五百、十七万六千貫目一千五百、十七万七千貫目一千五百、十七万八千貫目一千五百、十七万九千貫目一千五百、十八万貫目一千五百、十八万一千貫目一千五百、十八万二千貫目一千五百、十八万三千貫目一千五百、十八万四千貫目一千五百、十八万五千貫目一千五百、十八万六千貫目一千五百、十八万七千貫目一千五百、十八万八千貫目一千五百、十八万九千貫目一千五百、十九万貫目一千五百、十九万一千貫目一千五百、十九万二千貫目一千五百、十九万三千貫目一千五百、十九万四千貫目一千五百、十九万五千貫目一千五百、十九万六千貫目一千五百、十九万七千貫目一千五百、十九万八千貫目一千五百、十九万九千貫目一千五百、二十万貫目一千五百、二十万一千貫目一千五百、二十万二千貫目一千五百、二十万三千貫目一千五百、二十万四千貫目一千五百、二十万五千貫目一千五百、二十万六千貫目一千五百、二十万七千貫目一千五百、二十万八千貫目一千五百、二十万九千貫目一千五百、二十一万貫目一千五百、二十一万一千貫目一千五百、二十一万二千貫目一千五百、二十一万三千貫目一千五百、二十一万四千貫目一千五百、二十一万五千貫目一千五百、二十一万六千貫目一千五百、二十一万七千貫目一千五百、二十一万八千貫目一千五百、二十一万九千貫目一千五百、二十二万貫目一千五百、二十二万一千貫目一千五百、二十二万二千貫目一千五百、二十二万三千貫目一千五百、二十二万四千貫目一千五百、二十二万五千貫目一千五百、二十二万六千貫目一千五百、二十二万七千貫目一千五百、二十二万八千貫目一千五百、二十二万九千貫目一千五百、二十三万貫目一千五百、二十三万一千貫目一千五百、二十三万二千貫目一千五百、二十三万三千貫目一千五百、二十三万四千貫目一千五百、二十三万五千貫目一千五百、二十三万六千貫目一千五百、二十三万七千貫目一千五百、二十三万八千貫目一千五百、二十三万九千貫目一千五百、二十四万貫目一千五百、二十四万一千貫目一千五百、二十四万二千貫目一千五百、二十四万三千貫目一千五百、二十四万四千貫目一千五百、二十四万五千貫目一千五百、二十四万六千貫目一千五百、二十四万七千貫目一千五百、二十四万八千貫目一千五百、二十四万九千貫目一千五百、二十五万貫目一千五百、二十五万一千貫目一千五百、二十五万二千貫目一千五百、二十五万三千貫目一千五百、二十五万四千貫目一千五百、二十五万五千貫目一千五百、二十五万六千貫目一千五百、二十五万七千貫目一千五百、二十五万八千貫目一千五百、二十五万九千貫目一千五百、二十六万貫目一千五百、二十六万一千貫目一千五百、二十六万二千貫目一千五百、二十六万三千貫目一千五百、二十六万四千貫目一千五百、二十六万五千貫目一千五百、二十六万六千貫目一千五百、二十六万七千貫目一千五百、二十六万八千貫目一千五百、二十六万九千貫目一千五百、二十七万貫目一千五百、二十七万一千貫目一千五百、二十七万二千貫目一千五百、二十七万三千貫目一千五百、二十七万四千貫目一千五百、二十七万五千貫目一千五百、二十七万六千貫目一千五百、二十七万七千貫目一千五百、二十七万八千貫目一千五百、二十七万九千貫目一千五百、二十八万貫目一千五百、二十八万一千貫目一千五百、二十八万二千貫目一千五百、二十八万三千貫目一千五百、二十八万四千貫目一千五百、二十八万五千貫目一千五百、二十八万六千貫目一千五百、二十八万七千貫目一千五百、二十八万八千貫目一千五百、二十八万九千貫目一千五百、二十九万貫目一千五百、二十九万一千貫目一千五百、二十九万二千貫目一千五百、二十九万三千貫目一千五百、二十九万四千貫目一千五百、二十九万五千貫目一千五百、二十九万六千貫目一千五百、二十九万七千貫目一千五百、二十九万八千貫目一千五百、二十九万九千貫目一千五百、三十万貫目一千五百、三十万一千貫目一千五百、三十万二千貫目一千五百、三十万三千貫目一千五百、三十万四千貫目一千五百、三十万五千貫目一千五百、三十万六千貫目一千五百、三十万七千貫目一千五百、三十万八千貫目一千五百、三十万九千貫目一千五百、三十一万貫目一千五百、三十一万一千貫目一千五百、三十一万二千貫目一千五百、三十一万三千貫目一千五百、三十一万四千貫目一千五百、三十一万五千貫目一千五百、三十一万六千貫目一千五百、三十一万七千貫目一千五百、三十一万八千貫目一千五百、三十一万九千貫目一千五百、三十二万貫目一千五百、三十二万一千貫目一千五百、三十二万二千貫目一千五百、三十二万三千貫目一千五百、三十二万四千貫目一千五百、三十二万五千貫目一千五百、三十二万六千貫目一千五百、三十二万七千貫目一千五百、三十二万八千貫目一千五百、三十二万九千貫目一千五百、三十三万貫目一千五百、三十三万一千貫目一千五百、三十三万二千貫目一千五百、三十三万三千貫目一千五百、三十三万四千貫目一千五百、三十三万五千貫目一千五百、三十三万六千貫目一千五百、三十三万七千貫目一千五百、三十三万八千貫目一千五百、三十三万九千貫目一千五百、三十四万貫目一千五百、三十四万一千貫目一千五百、三十四万二千貫目一千五百、三十四万三千貫目一千五百、三十四万四千貫目一千五百、三十四万五千貫目一千五百、三十四万六千貫目一千五百、三十四万七千貫目一千五百、三十四万八千貫目一千五百、三十四万九千貫目一千五百、三十五万貫目一千五百、三十五万一千貫目一千五百、三十五万二千貫目一千五百、三十五万三千貫目一千五百、三十五万四千貫目一千五百、三十五万五千貫目一千五百、三十五万六千貫目一千五百、三十五万七千貫目一千五百、三十五万八千貫目一千五百、三十五万九千貫目一千五百、三十六万貫目一千五百、三十六万一千貫目一千五百、三十六万二千貫目一千五百、三十六万三千貫目一千五百、三十六万四千貫目一千五百、三十六万五千貫目一千五百、三十六万六千貫目一千五百、三十六万七千貫目一千五百、三十六万八千貫目一千五百、三十六万九千貫目一千五百、三十七万貫目一千五百、三十七万一千貫目一千五百、三十七万二千貫目一千五百、三十七万三千貫目一千五百、三十七万四千貫目一千五百、三十七万五千貫目一千五百、三十七万六千貫目一千五百、三十七万七千貫目一千五百、三十七万八千貫目一千五百、三十七万九千貫目一千五百、三十八万貫目一千五百、三十八万一千貫目一千五百、三十八万二千貫目一千五百、三十八万三千貫目一千五百、三十八万四千貫目一千五百、三十八万五千貫目一千五百、三十八万六千貫目一千五百、三十八万七千貫目一千五百、三十八万八千貫目一千五百、三十八万九千貫目一千五百、三十九万貫目一千五百、三十九万一千貫目一千五百、三十九万二千貫目一千五百、三十九万三千貫目一千五百、三十九万四千貫目一千五百、三十九万五千貫目一千五百、三十九万六千貫目一千五百、三十九万七千貫目一千五百、三十九万八千貫目一千五百、三十九万九千貫目一千五百、四十万貫目一千五百、四十万一千貫目一千五百、四十万二千貫目一千五百、四十万三千貫目一千五百、四十万四千貫目一千五百、四十万五千貫目一千五百、四十万六千貫目一千五百、四十万七千貫目一千五百、四十万八千貫目一千五百、四十万九千貫目一千五百、四十一万貫目一千五百、四十一万一千貫目一千五百、四十一万二千貫目一千五百、四十一万三千貫目一千五百、四十一万四千貫目一千五百、四十一万五千貫目一千五百、四十一万六千貫目一千五百、四十一万七千貫目一千五百、四十一万八千貫目一千五百、四十一万九千貫目一千五百、四十二万貫目一千五百、四十二万一千貫目一千五百、四十二万二千貫目一千五百、四十二万三千貫目一千五百、四十二万四千貫目一千五百、四十二万五千貫目一千五百、四十二万六千貫目一千五百、四十二万七千貫目一千五百、四十二万八千貫目一千五百、四十二万九千貫目一千五百、四十三万貫目一千五百、四十三万一千貫目一千五百、四十三万二千貫目一千五百、四十三万三千貫目一千五百、四十三万四千貫目一千五百、四十三万五千貫目一千五百、四十三万六千貫目一千五百、四十三万七千貫目一千五百、四十三万八千貫目一千五百、四十三万九千貫目一千五百、四十四万貫目一千五百、四十四万一千貫目一千五百、四十四万二千貫目一千五百、四十四万三千貫目一千五百、四十四万四千貫目一千五百、四十四万五千貫目一千五百、四十四万六千貫目一千五百、四十四万七千貫目一千五百、四十四万八千貫目一千五百、四十四万九千貫目一千五百、四十五万貫目一千五百、四十五万一千貫目一千五百、四十五万二千貫目一千五百、四十五万三千貫目一千五百、四十五万四千貫目一千五百、四十五万五千貫目一千五百、四十五万六千貫目一千五百、四十五万七千貫目一千五百、四十五万八千貫目一千五百、四十五万九千貫目一千五百、四十六万貫目一千五百、四十六万一千貫目一千五百、四十六万二千貫目一千五百、四十六万三千貫目一千五百、四十六万四千貫目一千五百、四十六万五千貫目一千五百、四十六万六千貫目一千五百、四十六万七千貫目一千五百、四十六万八千貫目一千五百、四十六万九千貫目一千五百、四十七万貫目一千五百、四十七万一千貫目一千五百、四十七万二千貫目一千五百、四十七万三千貫目一千五百、四十七万四千貫目一千五百、四十七万五千貫目一千五百、四十七万六千貫目一千五百、四十七万七千貫目一千五百、四十七万八千貫目一千五百、四十七万九千貫目一千五百、四十八万貫目一千五百、四十八万一千貫目一千五百、四十八万二千貫目一千五百、四十八万三千貫目一千五百、四十八万四千貫目一千五百、四十八万五千貫目一千五百、四十八万六千貫目一千五百、四十八万七千貫目一千五百、四十八万八千貫目一千五百、四十八万九千貫目一千五百、四十九万貫目一千五百、四十九万一千貫目一千五百、四十九万二千貫目一千五百、四十九万三千貫目一千五百、四十九万四千貫目一千五百、四十九万五千貫目一千五百、四十九万六千貫目一千五百、四十九万七千貫目一千五百、四十九万八千貫目一千五百、四十九万九千貫目一千五百、五十万貫目一千五百、五十万一千貫目一千五百、五十万二千貫目一千五百、五十万三千貫目一千五百、五十万四千貫目一千五百、五十万五千貫目一千五百、五十万六千貫目一千五百、五十万七千貫目一千五百、五十万八千貫目一千五百、五十万九千貫目一千五百、五十一万貫目一千五百、五十一万一千貫目一千五百、五十一万二千貫目一千五百、五十一万三千貫目一千五百、五十一万四千貫目一千五百、五十一万五千貫目一千五百、五十一万六千貫目一千五百、五十一万七千貫目一千五百、五十一万八千貫目一千五百、五十一万九千貫目一千五百、五十二万貫目一千五百、五十二万一千貫目一千五百、五十二万二千貫目一千五百、五十二万三千貫目一千五百、五十二万四千貫目一千五百、五十二万五千貫目一千五百、五十二万六千貫目一千五百、五十二万七千貫目一千五百、五十二万八千貫目一千五百、五十二万九千貫目一千五百、五十三万貫目一千五百、五十三万一千貫目一千五百、五十三万二千貫目一千五百、五十三万三千貫目一千五百、五十三万四千貫目一千五百、五十三万五千貫目一千五百、五十三万六千貫目一千五百、五十三万七千貫目一千五百、五十三万八千貫目一千五百、五十三万九千貫目一千五百、五十四万貫目一千五百、五十四万一千貫目一千五百、五十四万二千貫目一千五百、五十四万三千貫目一千五百、五十四万四千貫目一千五百、五十四万五千貫目一千五百、五十四万六千貫目一千五百、五十四万七千貫目一千五百、五十四万八千貫目一千五百、五十四万九千貫目一千五百、五十五万貫目一千五百、五十五万一千貫目一千五百、五十五万二千貫目一千五百、五十五万三千貫目一千五百、五十五万四千貫目一千五百、五十五万五千貫目一千五百、五十五万六千貫目一千五百、五十五万七千貫目一千五百、五十五万八千貫目一千五百、五十五万九千貫目一千五百、五十六万貫目一千五百、五十六万一千貫目一千五百、五十六万二千貫目一千五百、五十六万三千貫目一千五百、五十六万四千貫目一千五百、五十六万五千貫目一千五百、五十六万六千貫目一千五百、五十六万七千貫目一千五百、五十六万八千貫目一千五百、五十六万九千貫目一千五百、五十七万貫目一千五百、五十七万一千貫目一千五百、五十七万二千貫目一千五百、五十七万三千貫目一千五百、五十七万四千貫目一千五百、五十七万五千貫目一千五百、五十七万六千貫目一千五百、五十七万七千貫目一千五百、五十七万八千貫目一千五百、五十七万九千貫目一千五百、五十八万貫目一千五百、五十八万一千貫目一千五百、五十八万二千貫目一千五百、五十八万三千貫目一千五百、五十八万四千貫目一千五百、五十八万五千貫目一千五百、五十八万六千貫目一千五百、五十八万七千貫目一千五百、五十八万八千貫目一千五百、五十八万九千貫目一千五百、五十九万貫目一千五百、五十九万一千貫目一千五百、五十九万二千貫目一千五百、五十九万三千貫目一千五百、五十九万四千貫目一千五百、五十九万五千貫目一千五百、五十九万六千貫目一千五百、五十九万七千貫目一千五百、五十九万八千貫目一千五百、五十九万九千貫目一千五百、六十万貫目一千五百、六十万一千貫目一千五百、六十万二千貫目一千五百、六十万三千貫目一千五百、六十万四千貫目一千五百、六十万五千貫目一千五百、六十万六千貫目一千五百、六十万七千貫目一千五百、六十万八千貫目一千五百、六十万九千貫目一千五百、六十一万貫目一千五百、六十一万一千貫目一千五百、六十一万二千貫目一千五百、六十一万三千貫目一千五百、六十一万四千貫目一千五百、六十一万五千貫目一千五百、六十一万六千貫目一千五百、六十一万七千貫目一千五百、六十一万八千貫目一千五百、六十一万九千貫目一千五百、六十二万貫目一千五百、六十二万一千貫目一千五百、六十二万二千貫目一千五百、六十二万三千貫目一千五百、六十二万四千貫目一千五百、六十二万五千貫目一千五百、六十二万六千貫目一千五百、六十二万七千貫目一千五百、六十二万八千貫目一千五百、六十二万九千貫目一千五百、六十三万貫目一千五百、六十三万一千貫目一千五百、六十三万二千貫目一千五百、六十三万三千貫目一千五百、六十三万四千貫目一千五百、六十三万五千貫目一千五百、六十三万六千貫目一千五百、六十三万七千貫目一千五百、六十三万八千貫目一千五百、六十三万九千貫目一千五百、六十四万貫目一千五百、六十四万一千貫目一千五百、六十四万二千貫目一千五百、六十四万三千貫目一千五百、六十四万四千貫目一千五百、六十四万五千貫目一千五百、六十四万六千貫目一千五百、六十四万七千貫目一千五百、六十四万八千貫目一千五百、六十四万九千貫目一千五百、六十五万貫目一千五百、六十五万一千貫目一千五百、六十五万二千貫目一千五百、六十五万三千貫目一千五百、六十五万四千貫目一千五百、六十五万五千貫目一千五百、六十五万六千貫目一千五百、六十五万七千貫目一千五百、六十五万八千貫目一千五百、六十五万九千貫目一千五百、六十六万貫目一千五百、六十六万一千貫目一千五百、六十六万二千貫目一千五百、六十六万三千貫目一千五百、六十六万四千貫目一千五百、六十六万五千貫目一千五百、六十六万六千貫目一千五百、六十六万七千貫目一千五百、六十六万八千貫目一千五百、六十六万九千貫目一千五百、六十七万貫目一千五百、六十七万一千貫目一千五百、六十七万二千貫目一千五百、六十七万三千貫目一千五百、六十七万四千貫目一千五百、六十七万五千貫目一千五百、六十七万六千貫目一千五百、六十七万七千貫目一千五百、六十七万八千貫目一千五百、六十七万九千貫目一千五百、六十八万貫目一千五百、六十八万一千貫目一千五百、六十八万二千貫目一千五百、六十八万三千貫目一千五百、六十八万四千貫目一千五百、六十八万五千貫目一千五百、六十八万六千貫目一千五百、六十八万七千貫目一千五百、六十八万八千貫目一千五百、六十八万九千貫目一千五百、六十九万貫目一千五百、六十九万一千貫目一千五百、六十九万二千貫目一千五百、六十九万三千貫目一千五百、六十九万四千貫目一千五百、六十九万五千貫目一千五百、六十九万六千貫目一千五百、六十九万七千貫目一千五百、六十九万八千貫目一千五百、六十九万九千貫目一千五百、七十万貫目一千五百、七十万一千貫目一千五百、七十万二千貫目一千五百、七十万三千貫目一千五百、七十万四千貫目一千五百、七十万五千貫目一千五百、七十万六千貫目一千五百、七十万七千貫目一千五百、七十万八千貫目一千五百、七十万九千貫目一千五百、七十一万貫目一千五百、七十一万一千貫目一千五百、七十一万二千貫目一千五百、七十一万三千貫目一千五百、七十一万四千貫目一千五百、七十一万五千貫目一千五百、七十一万六千貫目一千五百、七十一万七千貫目一千五百、七十一万八千貫目一千五百、七十一万九千貫目一千五百、七十二万貫目一千五百、七十二万一千貫目一千五百、七十二万二千貫目一千五百、七十二万三千貫目一千五百、七十二万四千貫目一千五百、七十二万五千貫目一千五百、七十二万六千貫目一千五百、七十二万七千貫目一千五百、七十二万八千貫目一千五百、七十二万九千貫目一千五百、七十三万貫目一千五百、七十三万一千貫目一千五百、七十三万二千貫目一千五百、七十三万三千貫目一千五百、七十三万四千貫目一千五百、七十三万五千貫目一千五百、七十三万六千貫目一千五百、七十三万七千貫目一千五百、七十三万八千貫目一千五百、七十三万九千貫目一千五百、七十四万貫目一千五百、七十四万一千貫目一千五百、七十四万二千貫目一千五百、七十四万三千貫目一千五百、七十四万四千貫目一千五百、七十四万五千貫目一千五百、七十四万六千貫目一千五百、七十四万七千貫目一千五百、七十四万八千貫目一千五百、七十四万九千貫目一千五百、七十五万貫目一千五百、七十五万一千貫目一千五百、七十五万二千貫目一千五百、七十五万三千貫目一千五百、七十五万四千貫目一千五百、七十五万五千貫目一千五百、七十五万六千貫目一千五百、七十五万七千貫目一千五百、七十五万八千貫目一千五百、七十五万九千貫目一千五百、七十六万貫目一千五百、七十六万一千貫目一千五百、七十六万二千貫目一千五百、七十六万三千貫目一千五百、七十六万四千貫目一千五百、七十六万五千貫目一千五百、七十六万六千貫目一千五百、七十六万七千貫目一千五百、七十六万八千貫目一千五百、七十六万九千貫目一千五百、七十七万貫目一千五百、七十七万一千貫目一千五百、七十七万二千貫目一千五百、七十七万三千貫目一千五百、七十七万四千貫目一千五百、七十七万五千貫目一千五百、七十七万六千貫目一千五百、七十七万七千貫目一千五百、七十七万八千貫目一千五百、七十七万九千貫目一千五百、七十八万貫目一千五百、七十八万一千貫目一千五百、七十八万二千貫目一千五百、七十八万三千貫目一千五百、七十八万四千貫目一千五百、七十八万五千貫目一千五百、七十八万六千貫目一千五百、七十八万七千貫目一千五百、七十八万八千貫目一千五百、七十八万九千貫目一千五百、七十九万貫目一千五百、七十九万一千貫目一千五百、七十九万二千貫目一千五百、七十九万三千貫目一千五百、七十九万四千貫目一千五百、七十九万五千貫目一千五百、七十九万六千貫目一千五百、七十九万七千貫目一千五百、七十九万八千貫目一千五百、七十九万九千貫目一千五百、八十万貫目一千五百、八十万一千貫目一千五百、八十万二千貫目一千五百、八十万三千貫目一千五百、八十万四千貫目一千五百、八十万五千貫目一千五百、八十万六千貫目一千五百、八十万七千貫目一千五百、八十万八千貫目一千五百、八十万九千貫目一千五百、八十一万貫目一千五百、八十一万一千貫目一千五百、八十一万二千貫目一千五百、八十一万三千貫目一千五百、八十一万四千貫目一千五百、八十一万五千貫目一千五百、八十一万六千貫目一千五百、八十一万七千貫目一千五百、八十一万八千貫目一千五百、八十一万九千貫目一千五百、八十二万貫目一千五百、八十二万一千貫目一千五百、八十二万二千貫目一千五百、八十二万三千貫目一千五百、八十二万四千貫目一千五百、八十二万五千貫目一千五百、八十二万六千貫目一千五百、八十二万七千貫目一千五百、八十二万八千貫目一千五百、八十二万九千貫目一千五百、八十三万貫目一千五百、八十三万一千貫目一千五百、八十三万二千貫目一千五百、八十三万三千貫目一千五百、八十三万四千貫目一千五百、八十三万五千貫目一千五百、八十三万六千貫目一千五百、八十三万七千貫目一千五百、八十三万八千貫目一千五百、八十三万九千貫目一千五百、八十四万貫目一千五百、八十四万一千貫目一千五百、八十四万二千貫目一千五百、八十四万三千貫目一千五百、八十四万四千貫目一千五百、八十四万五千貫目一千五百、八十四万六千貫目一千五百、八十四万七千貫目一千五百、八十四万八千貫目一千五百、八十四万九千貫目一千五百、八十五万貫目一千五百、八十五万一千貫目一千五百、八十五万二千貫目一千五百、八十五万三千貫目一千五百、八十五万四千貫目一千五百、八十五万五千貫目一千五百、八十五万六千貫目一千五百、八十五万七千貫目一千五百、八十五万八千貫目一千五百、八十五万九千貫目一千五百、八十六万貫目一千五百、八十六万一千貫目一千五百、八十六万二千貫目一千五百、八十六万三千貫目一千五百、八十六万四千貫目一千五百、八十六万五千貫目一千五百、八十六万六千貫目一千五百、八十六万七千貫目一千五百、八十六万八千貫目一千五百、八十六万九千貫目一千五百、八十七万貫目一千五百、八十七万一千貫目一千五百、八十七万二千貫目一千五百、八十七万三千貫目一千五百、八十七万四千貫目一千五百、八十七万五千貫目一千五百、八十七万六千貫目一千五百、八十七万七千貫目一千五百、八十七万八千貫目一千五百、八十七万九千貫目一千五百、八十八万貫目一千五百、八十八万一千貫目一千五百、八十八万二千貫目一千五百、八十八万三千貫目一千五百、八十八万四千貫目一千五百、八十八万五千貫目一千五百、八十八万六千貫目一千五百、八十八万七千貫目一千五百、八十八万八千貫目一千五百、八十八万九千貫目一千五百、八十九万貫目一千五百、八十九万一千貫目一千五百、八十九万二千貫目一千五百、八十九万三千貫目一千五百、八十九万四千貫目一千五百、八十九万五千貫目一千五百、八十九万六千貫目一千五百、八十九万七千貫目一千五百、八十九万八千貫目一千五百、八十九万九千貫目一千五百、九十万貫目一千五百、九十万一千貫目一千五百、九十万二千貫目一千五百、九十万三千貫目一千五百、九十万四千貫目一千五百、九十万五千貫目一千五百、九十万六千貫目一千五百、九十万七千貫目一千五百、九十万八千貫目一千五百、九十万九千貫目一千五百、九十一万貫目一千五百、九十一万一千貫目一千五百、九十一万二千貫目一千五百、九十一万三千貫目一千五百、九十一万四千貫目一千五百、九十一万五千貫目一千五百、九十一万六千貫目一千五百、九十一万七千貫目一千五百、九十一万八千貫目一千五百、九十一万九千貫目一千五百、九十二万貫目一千五百、九十二万一千貫

# 麗人荘

（禁転載）

竹田敏彦作
伊勢良夫畫

(162)

父

章子が、那須に連れられて、東京麹町の××醫院へ急いだのは、あう夜の八時だつた。

金色の縁飾りに不気味な赤い絨が灯つた醫院の玄關を入つてゆくと、まだ公關には、際市の醫官が服を重ねて立物を執つてゐた。

「こちらへ……」

那須は、章子を、公關の右手に沿つて長いコンクリートの廊下伝ひに、ずつと奥の方へ連れていつた。

「さあ、お入り……」

那須は、廊下の右手に沿ふ、とある室のドアを開けた。

見るからに陰鬱な病室だつた。

が、章子の眼に映じたのは、室内の陰鬱さではなくて、ベッドの上に横たはつてゐる一人の男の姿だつた。

色の黒い精悍らしい男が、二十七、八の男を枕にして突伏りつけてゐた。その側で、男の細君であらう、肥満な感じの若い女が、泣き沈んでゐた。

「おい？　何故黙つてゐるんだ？　おい、ほんとにあの男、あんたは何處へいらしつたの。それを言へばいいぢやありませんか」

「わしは儘か、君に居たと言つてゐるぢやないか」

「だつて、お前の女房はあなかつたと言つてゐるんだ」

「こいつが嬉を言つてゐるんです」

男は、から言つて、慢めしさうに女房の方を睨んだ。章子は、何か那須はわからなかつた。良人の病室と、醫院の關への關係みに並いてゐる若い女の立場とけは判つた。

「ようし、嘘ならば嘘。醫院は上つてゐるんだから……」

那須が勧かすやうに言つた時だつた。

「ぢや、何處にゐるんだね……」

章子は見つめたが、

「知立てをしちや、あんたの為になんと」

章子は怒る〳〵

「まあ、醫校の番前台に入れてございましたのですが、二千圓ばかり那から、醫院なくなりまして私どもも、捜し廻つてゐるのでございます……」

「それで？」

「わたに、何處に居まするのか、一向行方が知れませんので……」

「醫師を言つちやいかん……」

醫師は、きつと章子を睨んだ。

章子を圓れてきた小原那須が、

「こつちへ……」

章子を、再び廊外へ出して、同じ廊下に那須である主任醫師へ導いた。そこは狭い待室になつて、章子は、ベンチの一隅に腰をかけた。

「那須さんは、どうしたのでせう。何故、良人の病室に居ないのでせう」

章子は、不安に胸をおどらせた。

「ぢや、何處にゐるんだね……」

章子を見つめたが、

「知立てをしちや、あんたの為になんと」

章子は怒る〳〵

「まあ、醫校の番前台に入れてございましたのですが、二千圓ばかり那から、醫院なくなりまして私どもも、捜し廻つてゐるのでございます……」

「それで？」

「わたに、何處に居まするのか、一向行方が知れませんので……」

「醫師を言つちやいかん……」

醫師は、きつと章子を睨んだ。

章子を圓れてきた小原那須が、

「こつちへ……」

章子を、再び廊外へ出して、同じ廊下に那須である主任醫師へ導いた。そこは狭い待室になつて、章子は、ベンチの一隅に腰をかけた。

「那須さんは、どうしたのでせう。何故、良人の病室に居ないのでせう」

章子は、不安に胸をおどらせた。

# 戦備を急ぐ世界

## 四年前に比べて四倍

### 世界經濟の新危機

世界の軍備費は一九三八年に於て再び新しいピークに達した。アメリカ外交政策の目標り、ヨーロッパ諸國の軍備費が、同時にその國民經濟及ぼしてゐる影響を檢討してゐる。左にその要点を掲げる。

×

世界の軍備費合計は一九三四年の五千億ドルから一九三七年には百五十億ドルとなり、本年の見積りでは百八十億ドルを超過するであらうと見られるに至つた。昨年ある政治家が軍備競爭は軍備競張の影響を絶えず檢討してゐるが、再軍備の進行は世界經濟に新らしい形態の危機を與へつゝある。

其の最も根本的な問題は、戰爭關係費用と平和への大衆の資金購入と政府の經濟への干渉の増大で他の重要な經費は影を潜めた觀がある。一九三六年に於ては、英國を除く世界列國は公債の借入れによらないでは政府支出の檢討を計り得なかつたが、今日では英國すらも公債發行により軍費を賄はざるを得なくなり、世界中で軍備擴張の影響を受けてゐる國は僅かに數ヶ國を殘すに至つた。その上、國民所得の内で戰爭前個に費消せざる割合が増大して行く事が、他の經濟活動及社會施設其他政府の行政費に與へる壓迫を増大しつゝあることはいふまでもない

×

一九三八年を百とする物價指數の千葉生產指數は一九三三年の五四から一九三五年には一〇七、一九三七年第三季には一二一・六に達し、此間國民所得は一九三三年の四千五百二十万マルクから一九三七年の六千八百五十万マルクに増加した。又、失業者は一九三三年一月には六百万を數したが、一九三七年には五十万人に減じ、本年は更に減少の傾向にある。

物價の騰勢を考慮しても一九三八年の世界軍備費は一九三三年の四倍以上に達するに至つた。これは大戰時を除けば今迄に見られない大きな數字である。過去四年間に於ける軍備の増加は一九三七年に於て最も著しく、一九三八年に於ては更に増加の傾向にある。

×

軍備の増加は國民所得の増加を凌駕してゐる。一九三三年の國民所得を一〇〇とすれば一九三七年には一三〇に増加してゐるが、軍備費は一九三三年の一〇〇から一九三七年には二五〇に増加してゐる。

# 全學童が登校前に揃つて神社參拜

## 羅東公學校兒童が毎日實行

## 皇軍の武運長久を祈願

【羅東通信】台北州羅東公學校では兒童を通じて國民の明朗化を圖るため、登校前に羅東神社に參拜する事を企圖し去る廿三日條名に對し此種美風たる好成績を擧げて居るが尚ほ次條の好成績を擧げつゝある

一、參拜は各自の家庭に於て實行すること

二、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

三、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

四、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

五、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

六、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

七、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

八、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

九、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

十、參拜の際は必ず兩手を合せ拍手を爲すこと

## 白衣の勇士慰問に

## お人形を贈る

### 宣蘭遺家族の美擧

【宜蘭電話】宜蘭婦人會員の有志は、今回宜蘭出身の軍人軍屬にして戰死又は戰病死したる者の遺家族に對し、慰問の意味を以て、一人形を贈呈することとなり、目下其の人形を製作中であるが、其の人形は、白衣の勇士慰問に對し

# 『北方の旅』から

## コペンハーゲンの印象

文と絵　カール・カペック

大きな過ぎて、利口過ぎる頭をした丸々とした自從十代、それがデンマークである、三百万の国民の勝の上に百万の住民を持つた首都を想像して見給へ、美しい町、高貴で、穏やかで、優々悠々として暇やかである、傳々数百年前コペンハーゲンは国際都市であり、デンマークの王様が国の門の鍵を彼の夜の寝土に持つことになつてゐたといはれてゐる、今日では港岸何ら即の門もなく、コペンハーゲンは北方のパリと呼ばれてゐる、コペンハーゲンはさ国際都市を正式てゐる、それ故に思い傷がコペンハーゲンには残されてゐる、実際王様の馬の鞭傷がある、この鞭傷は都で出来てゐるので鎖の馬はその鎖の王様の下で眠しんでゐる馬の腰は徐々に鞭から他に元づきつつある、馬の腰が自に残れる時コペンハーゲンの没落であらうと人々は噂さしてゐる

実際その鎖傷の下で私は若人や老い人たちが夜に入るまでがくかけてゐるのをみた、恐らくその人たちは国際のその光を待つてゐるのであらう、人がコペンハーゲンを創る時人はコペンハーゲンの臨から離れ、でも特に注意に値する他の多くのものがある

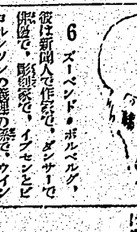
1　自動車に乗る男と女、ここではオランダにおけるやうに多いしかも彼らは驚異して流れになつて、或ひは静らか二つ一組になつて街をそうさと着さて過ぎる、ここでは自動車は絶対の手段であることを止めて、大抵、衣、火、衣着と共に生命の要素のやうな何ものかになりきつてゐる

2　ファッションの店、私はコペンハーゲンにおける最新人のファッションの店をそんなに深山外でみたことがなかつた、それらの店は全くブラークの画風、北極圏

3　街に騒音がない、「かたちは私たち自身で注意することが出来る」

4　大きな脳の姿を持つた紳士淑女、私は彼らのうち十二人をみた彼らは皆々たる見ものである、私たちの室内人は初しさうに振して行つた「そら、彼さんは我が国の大学を卒業になつてる」

5　楽劇の観衆、フランスの観衆たち、フラダニエール、カルボー、ロダンをみたい人やボル・ゴーガンに興味を持つてゐる人はコペンハーゲンに行かなくてはならない、そのすべてはビールから生れる、ここでは大きなカールスベルグの醸造所からの利益の多くが有名な銅像、科学の機関金に振向けられる、神よ、私たちが彼等の銅像のために飲むなら彼と銅像があるのだらうかしかしカール・ヤコブセンとオンデイリ夫人はここの国でも忘れられない！それは非常に感謝しなければならないものであらう



6　スーベンド・ボルベルグ、彼は新聞人で作家で、ダンサーで傳家で、影響家で、イプセンとビョルンソンの親密の際で、ウイン首脳時代からの外交官の顧ともした際せた偉人たちの男である、諸君のうちでコペンハーゲンをみてボルベルグに会はなかつた人は何も知らないのである、諸君はフエスティバルボーゲードから傳真テーリエンボルグへ行つてティヴオリの周りを何の目的もなくく〜廻つた、でもそれに物らず諸君はティヴオリへ行ける、何故つてそこにスーベンハーグンの音楽があるからだ、ティヴオリはコペンハーゲンの音楽であり、スイング、時代遅れの即興ファウンテン、バー、娯楽場の即ち、子供たち、人々、

7　ティヴオリはコペンハーゲンの音楽であり、スイング、時代遅れの即興ファウンテン、バー、娯楽場の即ち、子供たち、人々、

8　その外に何かあるかどうだ、運河、市場、官庁、手風琴が盛んだ、同じ夜に同じ時に幾つも音楽が盛り場所で違つた音楽が演奏されてゐる、諸君はこの国でも忘れられない！それは非常に感謝しなければならないものであらう

9　宗教、人々はルターの子供たちはゲーゼとルターの子供たちである

# 戰線歲末の點描

（一）我が陸戰隊勇士も前線で松飾り（廣東）（二）樂士建設の開拓を祝ふ廣東民衆の假裝行列、打倒蔣介石の姿にお目を注がれよ（3）お正月を前に復興を急ぐ漢口バンド（4）兵隊さんもサンタクロースになつてXマスの準備（上海）

# 孝感爆撃荒驚の華　得猪機發見さる

## 敵陣に自爆して壯烈な最期　敵格納庫に機體保存

【南京二十五日發同盟】二十四日孝感飛行場に來襲した敵機二十數機は我が戰闘機隊の猛攻撃を受けて大半を撃墜され殘餘は算を亂して逃走したが、その中一機は我が戰闘機の體當りを受けて自爆し、搭乘者は壯烈な最期を遂げた。

【漢口

# 榮冠は臺北商業へ

## 全臺灣ホッケー中等部試合終る

多彩裡ホッケー選手権大会中等部試合は廿日午前九時から台北第一運動場に於て北商対一中の決勝戦に於て北商は前半戦に於ける一中の猛攻を防ぎ後半戦に於てセンターフォワードの林氏月宮が巧みなドリブルによつて右翼の味方に渡し、右翼の味方がこれを受けてゴール前に送つたボールを林氏月宮が受けて見事ゴールに入れ一点を得たが、一中は後半戦に於ても猛攻を続けたが北商の堅守に阻まれて遂に一点も得ることが出来ず北商が一対〇で勝つた

（前半）0―0（後半）1　得点者（後半）林氏月宮

北商　GK 林氏月宮　FB 西部　HB 同　FW 林氏月宮　同　同　同　同

一中　GK 野間　FB 松村　HB 谷口　FW 高橋　同　同　同　同

### 試合経過

（前半）開始早々一中は右翼より攻めたが北商の堅守に阻まれ、北商は中央を突破して一中ゴールに迫つたが一中の堅守に阻まれ、